

こころ であ 出 会 い そ し て つ な が り はし

心のかけ橋

第25号
2022年3月
発行

はつこう こなんしじんけん かいぎ
発行：湖南省人権まちづくり会議

じむきょく じんけんようごか こなんし いしべちゅうおういつちようめ ばん ごう こなんし やくしょにしちようしゃ かい
【事務局】人権擁護課 〒520-3195 湖南省石部中央一丁目1番1号（湖南省役所西庁舎1階）
TEL：77-8511 FAX：77-4101 Eメール：jinky@city.shiga-konan.lg.jp

「多様性と調和」そして「尊敬と尊重」

2021年（令和3年）も、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。そして、世界的イベントといわれる東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となり、多くの選手が新型コロナウイルスに翻弄されたといっても過言ではありません。その平和の祭典といわれるオリ・パラは、出場選手が自身の限界に挑戦しながら高いパフォーマンスを発揮したことで、選手を応援する人々や多くの観戦者に大きな感動と希望、そして勇気を与えてくれました。

しかし、一方で人権にかかわるいくつもの事象が明るみに出て、みなさんも考えさせられる場面が多くあったことも事実でしょう。具体的には、会議での女性蔑視発言や障がい者の同級生を過去にいじめていたという記事、さらに競技開始前や表彰の場で人種差別などへの抗議を表明するポーズをとる選手の姿や多様なルーツを持つ選手への対応の話題などが報じられました。

現在適用されているIOCガイドラインは、「可能な限りトランスジェンダーのアスリートを競技スポーツから排除しないことを担保する」という観点から作成されています。そして、東京2020オリンピックの大会のビジョンのひとつは、「多様性と調和」であり、ジェンダー平等の推進をうたっており、世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐむ契機となる大会と位置づけていました。競技における公平性と、人権における視点の両方の観点から創りあげていくことを重視していたといえるでしょう。世界の国と地域において、さまざまな人権課題が山積していることは否定できません。人は、差別してはいけないことは十分にわかっています。でも、現実には厳しい状況にあります。隣にいる人や身近な人、そしてあらゆる立場の人々を差別しないためには、相手を「尊敬すること」「尊重すること」です。「尊敬・尊重」することで平等の意識が生まれ、その努力によって自分の中から差別をなくす取組を実践したいものです。

湖南省人権まちづくり会議として、身近に存在するあらゆる差別や人権課題の解決に向けて多くのみなさんや各関係機関と連携し、具体的な取組を計画的に進めていきます。どうか、今後ともご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

かいちよう やまもと ひろし
会長 山本 博

CONTENTS

生きる権利（基本的人権）について人間は尊敬すべきもの（水平社宣言の願い）

今年度実施しました全体研修の報告と「湖南省人権まちづくり会議」各部会活動として現地研修やゲストとしてお招きした人たちにメッセージをいただきました。

- 【実施報告】 2～3
- 【特別寄稿】 4～9
- 市内小中学校児童生徒の人権ポスター・標語の紹介 10

実施報告 湖南省人権まちづくり会議全体研修

演題「部落差別を考える 水平社について
～人間は尊敬すべきもの～」

講師 上杉 聡さん (大阪市立大学元教授、じんけんSCHOLA 共同代表)

「豊かなつながり創造講座」は人権尊重のまちづくりの推進を担っていただいている地域のリーダーの方や、人権課題に向き合おうとされている市民の方々に向けて、毎年企画・開催しております。

本年度の連続講座のテーマは、今年度が全国水平社創立100年を迎える年でもあることから、「生きる権利(基本的人権)について人間は尊敬すべきもの(水平社宣言の願い)」としました。

また、9月は滋賀県では同和問題啓発強調月間にあたり、9月8日に開催しました第1回目の本講座は、部落差別を考える講座とさせていただきます。

令和4年3月に全国水平社創立100年を迎えるに際し、上杉 聡さんを講師にお迎えし、オンラインでの講演会を開催しました。(県下に緊急事態宣言が発令されていたことから、オンラインのみの実施とさせていただきます。)

日本に古くから続いてきた人権問題である部落差別に新しい光を当て、部落差別に関して新しく分かった歴史的な経緯などについて解説頂き、考え方を深めました。

講演内容の概要

これまで学校の教科書では、明治の世になり、それまでの武士の支配による身分制度が廃止(解放令)されたと今まで教えられてきたかもしれませんが、新たに作られた戸籍には新平民などと記載され実際には差別がさらに強化されていきました。その結果、差別される人の生活は、江戸時代以上に苦しいものになっていきました。そんな中で、「差別は、差別をする側の問題である」と気づいた西光万吉や駒井喜作らによって、1922年3月3日に全国水平社が設立されるのです。京都の岡崎公会堂で開催された全国水平社創立大会には、被差別民衆が多く集まりました。

そこで読まれたのが水平社宣言です。全国水平社は、国民の2パーセントにすぎない被差別部落の人たちが立ち上がり設立されました。2パーセントのもっとも弱い立場の人たち自身によってつくられたのが「水平



オンライン講演時の様子

社宣言」です。この宣言は日本の「人権宣言」として、また、被差別マイノリティ自身が作成した人権宣言として当時、朝鮮の被差別マイノリティの白丁(ペクチョン)を中心に結成された衡平社(ヒョンピョンサ)やインドの被差別カーストであるダリットなどからも注目され、国際社会からも高く評価されました。

この全国水平社創立大会から今年の3月3日でちょうど100年です。100年前につくられた「水平社宣言」には、差別される側の人たちの怒りや憎しみは謳われていません。むしろすべての人間を尊敬することを通して差別から解放されるのだと謳われています。差別は「差別する」という行為によって生まれます。ならば差別しないというなにもしないということで差別はなくなりません。互いを「尊敬する」という積極的な行為によってはじめて差別はなくなるということなのです。

※人権擁護課では、講師の上杉 聡さん監修によるDVD「シリーズ映像でみる人権の歴史 第7巻「水平社を立ちあげた人々」を貸し出ししています。地域での学習会にご活用ください。



(DVDの写眞)

参加者の感想 (一部掲載)

- 人に対して尊敬していくことを伝え続けていく事で差別もいじめも無くなる。とても素晴らしいことだと感動しました。
- 水平社宣言のことを初めて知りました。決議に参加した人だけでなく、有馬 頼寧のような賛同者の存在が必須である。「尊敬する」ことで、人は対等になれる。という言葉に納得しました。
- 今さまざまな人権課題がある中、久しぶりに水平社宣言を読み返して、基本の大切なことを再確認しました。改めて水平社宣言の意義が理解できよかったです。
- あらためて「部落差別」について基本にもどる機会となりました。「尊敬する」本当にそうだと思います。私自身も普段その思いをもっているかと考えると反省することが多いです。まず講座で教えていたことを自分のものとし、そして周りの方々にも伝えていければと思います。
- 水平社の考えが、当時のさまざまな人に支えられ、また影響を与えていることを再認識できました。
- 最後のリスペクトアザーズの話は、自分自身も感じているところ です。私の居住地域にはたくさんの外国人住民がおられますが、話をしていると「リスペクト」という言葉をよく使われます。また、以前にカナダに視察研修に行ったとき、すべての学校で「最も大切にしているのはリスペクト」と言っておられました。カナダは移民の国と言われるほど、さまざまなルーツの人々が住んでいます。そういったなかで育まれてきたものなのだと感じました。



「看取り士」

だれ 誰にでも訪れる旅立ちの時を安心して迎えられるように

看取りステーション 滋賀「たんぽぽ」 看取り士 西河 美智子

旅立ちのあたたかさをご存知でしょうか。皆様にとって「死」はどんなイメージでしょうか。「死」は悪いものでも怖いものでも、ましてや穢れたものでもありません。

むしろ、ものすごい量のエネルギーを渡される、その方の人生にとって最も大きな愛にあふれた時です。

その場でエネルギーを受け取り、命のバトンを繋いでいくことは、感動的な体験となります。ゆっくり看取することで、喪失感ではなく、感謝と愛と希望に変わっていく大切な時間です。

病院死が8割という現在、ほとんどの人が人の死を見ておらず、看取りを体験する場がありません。

今は、そんな時代です。80代のご家族さんも最期の時「どうしよう、どうしたらいいかわからん。」とおっしゃいます。私達は時代の変化の中で看取り方を忘れてしまい、看取りに寄り添う人が必要なのです。

さまざまな凄惨な事件のニュースを見る度、命の尊さに触れる機会の大切さを思います。日本の教育の中で死生観を学ぶ機会が無く、限りある命の尊さに出会う体験や語り合う機会が無いのです。

命を学ばせていただく最大の場面は看取りの時です。数々の看取りの体験から、子どもたちや不安の中におられるご家族など必要な方々に看取りが大切なことを伝え続

けていきたいと思っております。

私たちが関わる看取りの場面では、看取り士は「もう一人の家族」という立ち位置で、臨終に立ち会います。その時こそ子どもたちに「いのち」が手渡される「幸せな死の文化」を作り上げる道だと思えます。死生観を学ばずに育つ私たちに、生きる意味、人生の宝物を手渡す時が看取りの時です。誰もが愛を感じながら旅立てる姿を子どもたちに見せ、繋いでいく事が大切です。他人を思いやる心は、看取りをすることで、子どもたちの心に届きます。看取りが心の架け橋となり、家族が変わり、地域が変わっていきます。

人生最期の看取りを大切にすることは、最期まで自由に生きる一人ひとりの尊厳を大切にすること、人権を守ることです。

家族だけで頑張らなくても、しあわせな看取りができます。困った時には、看取り士を思い出してください。

すべての人が愛されていると感じて、旅立っていただけるように、関わった誰もがこれで良かったと思えるようお願いを込めて、臨終に立ち会い看取りの作法をお伝えいたします。

この度繋いでくださったご縁に、深く感謝致します。



子どもの環境を考えてみませんか？

子ども・本・文化を考える会 大船 めぐみ

私たちは、子どもたちが豊かに幸せに育つてほしいと願っています。子どもが育つ環境は子どもの成長に大きくかかわってきます。子どもの環境を考えるうえで、日本における子どもの本の礎を築いた石井桃子さんのことばを紹介します。

子どもたちよ 子ども時代をしっかりとたのしんでください

おとなになってから老人になってからあなたを支えてくれるのは子ども時代の「あなた」です

このことばは私たち大人に言われているように思います。「子ども時代をしっかりと楽しむ」、この意味を社会全体の中で考えなければなりません。

今回、ことばを中心に子どもの環境を考えていきたいと思っています。

子どもは決して瞬時に育ちません。今も昔も子どもの育つ過程は変わりません。少しずつ成長していく中で、子どもたちは自分に向けて語られることばをまるでお乳を飲むように身体の中に吸収していきます。生まれた時から大好きな人のことばに耳を傾け、全身で受け止めています。

例えば、*ブックスタートで赤ちゃんに話しかけると、目と目が合い聞いてくれて

いるのがよくわかります。自分に話しかけられるのを喜び、さらに待っているのです。ことばの中に大人たちの愛情がたっぷり詰まっていることを、赤ちゃんはちゃんと知っています。

ことばを得ることは、人として育つうえでとても大切なことです。人は、ことばでもって考え・理解していきます。どれだけ多くのことばの世界を体験するかによって世界が変わってきます。その一つが、絵本や本を読んであげることだと思えます。本の中には無限の世界があふれています。子どもは絵本を読んでもらうことが大好きです。大好きな人の温かい声で読んでもらうことは、至福の時間です。読み手と聞き手が作り出したこの時間は、それぞれの宝物になることでしょ。

絵本の世界を子どもと共感できる時間は子育ての中でほんの一瞬です。この時間を大切にしましょう。



*ブックスタートとは、赤ちゃんと保護者が絵本をとおしてゆっくりふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。

エルジービーティー た よう せい かんが LGBT - 多様な性を考える

とくてい ひ えい り か つ ど う ほう じん フ ォ ー ク こ ん ど う ゆ か
特定非営利活動法人 QWRC 近藤 由香

皆さんはLGBTという言葉を見聞きしたことはありますか？レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字を取って並べた言葉です。最近はその4種類の人を指すだけでなく、性のあり方が少数派の人たちを広く指す言葉として使われています。ではSOGIやSOGIEはどうでしょうか？*SDGsの取り組みの中で見聞きされたり、セクシュアルハラスメント防止の研修で聞いたことがあるという方もいらっしゃるかもしれません。SOはSexual Orientation (性的指向、どの性別の人を好きになるか)、GIはGender Identity (性自認、自分の性別を何だと思うか)の頭文字を取ったものです。Eが加わる場合はGender Expression (性表現、どの性別の振る舞いをするか)を含んでいます。勘の良い方ならお分かりかもしれませんがこのSOGIというものは全ての人に
あるものです。もちろん、恋愛感情を抱か

ないよという方(アセクシュアルなど)も性的指向が無性というあり方としてあるのです。このSOGIですが、多くの方はSOが異性に向いていて、GIが出生時に割り振られた性別のままです。LGBTはこのSOGIが少数派の人たちと言えます。

SOGIにまつわるからかいや暴力はセクハラとされます。

SOGIに限らず、多数派に属していると少数派のことを忘れてしまいがちです。また、もし自分の中に、少数派に対し否定的な思いがあるとすれば、その当事者となった時はさぞ辛いことでしょう。いつでも多数派でいられ続ける人は稀です。いつなんどき少数派になるかは分かりません。日々の暮らしの中で少数派に意識を向ける習慣が必要ではないでしょうか。

*SDGsとは、2015年の国連サミットで採択され、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。



外国人の人権について

多文化共生支援センター 所長 喜久川 修

滋賀県における 国別外国人 33,881人		滋賀県における 在留資格別外国人 21,283人	
国籍	人口(人)	在留資格	人口(人)
ブラジル	9,497	特別永住者	3,657
ベトナム	5,951	永住者	10,146
中国	5,322	日本人配偶者	1,908
台湾	245	永住者配偶者	446
韓国	4,048	定住者	5,126
朝鮮	300		
フィリピン	2,692		
ペルー	1,586		
インドネシア	1,105		

※上位9か国のみ記載

滋賀県における国別外国人、在留資格別外国人の一覧です。

ブラジル国籍が2020年12月末9,497人で滋賀県では1番です。過去最多は2007年で14,342人でしたが、2008年リーマンショックで沢山のブラジル人が母国に帰られました。今後は徐々に増えていくものと思います。

2番目はベトナム国籍です。2010年は411人でしたが留学生技能実習の在留資格で日本にこられ5,951人になりました。何と15倍ほどです。(全国的な傾向)今後はコロナ感染拡大、ベトナム経済成長などであまり増加は見込めないと思います。

さて在留資格別外国人ですが、特別永住者、永住者、日本人の配偶者、永住者の配偶者などが滋賀県在住の外国人33,881人のうち21,283人で人口比率63%になり(全国平均は52%)高い水準です。特に5つの在留資格はどんな仕事、どこに住んでもなんら制限は

ありません。

もちろん権利義務も発生します。納税、社会保険(健康保険、年金、労働保険)、義務教育(文科省通達日本人と同様に受け入れ)、コロナ対策支援策特別定額給付金一人一律10万円、コロナワクチン接種(1回・2回・3回)、日本での最低生活保障(生活保護)、住宅取得(ローンが組める)。ただ参政権がないぐらいです。

人口減少の中、21,283人の外国人のひとりたちは滋賀県民のひとり、湖南市民のひとり、地域住民のひとりであると日本人が意識を持って頂きたいです。

また外国人の差別用語にも注意してほしいです。外人(ガイジン)(GAIJINN)、よそ者、部外者、仲間以外の人、疎遠な人…これからは外国人、もしくは外国籍住民とよんでほしいです。それから日本人と外国人の間に生まれた子どもを、まわりから「あの子はハーフ」と呼ぶことがあります。

ハーフ…半分…人間の半分…昔は混血児???これからは、ダブル(二つの言語や文化をもち二つの良いところを持っている)という呼び方がいいのではないのでしょうか。

差別は無理解、無知、まちがった情報、思い込み、すりこみなどの偏見から生まれます。

これからはお互いの人権を尊重し、良さ違いを認め合い手を携え一緒になって安全で安心な地域社会を共につくって行きましょう。

多文化共生社会の実現を!!

女性の人権

「悪意はない」けど「差別はある」とは

ファシリテーターズ ラボ Facilitator's LABO <えふらぼ> 栗本 敦子

みなさんは、もしも生まれ変わるなら女性がいいですか？それとも男性がいいですか？いろんなところで尋ねてみるのですが、「いまとは違う性別も体験してみたい」と男性に生まれ変わることを選ぶ女性に対し、女性に生まれ変わることを選ぶ男性はそれほど多くないように感じます。これは何を意味しているのでしょうか。

「女性と男性は平等」「女性差別はあってはいけない」このことを否定する人はいないでしょう。けれど、たとえば、「女医」「女子アナ」「老女」といった言葉はありますが、「男医」「男子アナ」「老男」という言葉はありません。「医者」「アナウンサー」「老人」という表現は、男女両方を指す言葉であるはずですが、「女」とつけない限り「人＝男性」となっており、言葉の世界に男性優位があらわれているのです。

差別は自分でも気づかないところにひそんでいます。最近では「無意識の差別（アンコンシャス・バイアス）」が注目されています。アメリカのオーケストラのオーディションで、女性だからと差別せず音だけで判断しているつもりだったのにもかかわらず、衝立を立てて演奏者が見えないようにすると女性の合格率が上がった、ということがあり、その後オーディションは衝立を立てることになった、というエピソードがあります。「偏見を持たないよう気をつける」だけでは無意識の差別はなくなり、仕組みを変えなくてはならないのです。

女性差別をなくすために重要なのは、男性のあり方です。社会であたりまえとなっていることや、悪気のない多数派のあり方に焦点をあてることで、公正な社会をめざしましょう。



コロナ禍の今こそ共に生きる

— 知ることから始まることがある —

しゃかいふくしほうじん ふくし かい かね こ ひであき
社会福祉法人さわらび福祉会 金子 秀明

障がいのある人たちと一緒に働いて暮らして40年近い月日が経ちました。障がいのある人を支援すると意気込んだ若い頃。でも彼らの生きざまから、さまざまなことを教えられ、力をもらっているのは自分なのだとは知らされました。

相談支援を始めた頃、ひきこもりがちで暮らしをしていたAさんが、ずっと抱え込んできた事情を私に話してくれました。

「僕が中学生の時、寒い冬の日に体育館で全校集会があったんです。トイレに行きたいって言えなくて、失敗しちゃったんです。次の日から、めっちゃ、やられました。『汚い、臭い』。とにかく逃げようって思って、離れた場所にある進学校に行こうって思ったんですよ。勉強頑張って、ちょっと成績が良くなったら、余計やられました。

何とか、希望の高校に受かったんです。高校1年の1学期は天国でした。誰も僕のことをいじめないんですよ。ほんま嬉しかった。でも、夏休みが終わったら誰かが聞きつけたんだと思うけど、またやられるんですわ。女子から、きもいって言われた時に、もう学校には行かないって決めました。だって、自分が壊れるのわかってましたよ。学校に行こうとすると、もどしちゃうし。夜は雨の音が、自分を責めているように聞こえるし。でも家に居たら、両親が僕のこととでけんかするんですよ。母さんが泣いて

るんですよ。家にも居ちゃいけない。だから僕は死ぬ気で学校に行きました。留年して、年下のやつからもやられて。ひとりで卒業証書をもって、電話帳で病院を調べて行って、統合失調症って診断されました」

彼に、その時にどんな場所があればよかったと思うかと聞いたら、「それは、学校でもなくて、家でもなくて、僕が排除されない場所。僕が居てもいい場所があれば、そこに行きましたよ」。次に、どんな支援があればよかったと思うかと聞くと、「支援って言っても、学校の先生でも僕のいじめは解決できなかったんですよ。でも、もし誰かが横に座って、僕の言うことを、うんうんって、うなずいて聞いてくれたら、僕は救われたかもしれない」。そう応えてくれました。

コロナ禍が長引き人と人のつながりが失われつつあります。だからこそ、悩みや不安を一人で抱え込んでしまっている人たちに「大丈夫、あなたの居場所はあるよ」と寄り添える、誰もが共に生きるまちづくりが今、求められています。



市内児童・生徒 人権ポスター



自分らしく生きよう!

ぼだいじしょうがっこう 5年 すえとめ じゆん や 菩提寺小学校 5年 未留 淳矢



自分の個性 みんなの個性 三雲小学校 5年 岡崎 春乃



困っている人に
手を
差し伸べてみよう

困っている人に手を差し伸べてみよう

いしべちゅうがっこう 2年 やまざき みく 石部中学校 2年 山崎 美紅



一人一人命がある 水戸小学校 5年 明石 莉奈



君だけのカラフル 甲西北中学校 2年 まえだ ひより 前田 陽和

人権標語

- | | |
|-------------------|--|
| 助け合い 笑顔あふれる 思いやり | いしべみなみしょうがっこう 5年 おき ひまる 石部南小学校 5年 沖 日菜瑠 |
| コロナでも やぶれないのは 絆だよ | しもだしょうがっこう 5年 なかい ゆら 下田小学校 5年 中井 柚良 |
| ありがとう 心をつなぐ あいことば | こうせいちゅうがっこう 1年 こにし はな 甲西中学校 1年 小西 初奈 |
| 大丈夫? 他人事ではなく 一言を | こうせいきたちゅうがっこう 2年 あおき ゆい な 甲西北中学校 2年 青木 柚依奈 |